

エフェゾ書序言

エフェゾのこと エフェゾは聖パウロの時代には、アジア、プロコンスラリスと言うロマ帝国の一州の首府で、海から三里ほど離れていたが、ケエストロスと呼ばれる大河のほとりにあつて港を持ち、商業も非常に繁昌し、使徒行録十九章二十三節以下にも見えるように、有名なディアナ女神の大社たいしやおよび大劇場等の著しい大建築をも有していた。

エフェゾ教会とパウロとの関係 聖パウロは第二回伝道旅行の終わろうとする時、すなわちおよそ紀元五四年のころ、ギリシアからシリアにおもむく途中、初めてエフェゾに立ち寄り、少しだけユデア人の会堂で福音を述べただけであつたが、立ち去る際に、道づれであつた友人アクイラおよびプリシルラを残したので、この熱心な夫婦はここで伝道の業に励んだことだらう。第三回伝道旅行の時、パウロは再びエフェゾに至り、三年間すなわち五五年から五七年までここに滞在して布教したが、その結果、エフェゾだけでなく四方におびただしい信徒を得た。ところが使徒行録十九章十節以下に見えるように金飾師デメトリオが争乱を起こしたために、パウロは急に出立しなければならなくなった。その後パウロがエフェゾに行ったのは、ずっと年月を経たのちのことであつて、ロマでの第一回と第二回との入獄の間であつた。

本書をしたためた機会および目的 これは書中に詳記されていないので不明である。けれども使徒行録二十章十一節以下に見えるように、パウロがミレトで会つてエフェゾ教会の聖職者に訣

別した時、将来教会内に謬説を伝播させる人々が起こるであろうことをあらかじめ告げたことがあるので、あるいはそのようなことがすでに起こったために本書をしたためたのであろう。そうでなければ、またユデア教主義を再興させようとする人々があつたか、あるいはテオゾフィのような接神論者がいて空想をいだかせようとしたことによるものであろう。パウロはこのような謬説を直接には反駁しないが、教理を高尙に述べてエフェゾ人の信仰および道德心を警醒し、謬説に対する予防をさせたもののものである。

パウロはエフェゾ人の間に三年間も親しく交わり、その信仰上の父とも言われるはずの者であるのに、本書の中に知人への伝言のないのはいぶかしいことである。あるいは本書の六章二十一、二十二節に見えるように、これをエフェゾに持って行くチキコと言う人が、その足りないところを補うべきはずであつたか、あるいは、多くの人の言うように、本書はまた小アジア地方の数カ所の教会にも宛てたものであろうか。

本書の題目および区分 本書の題目は主に二つの思想につづまり、パウロはもっぱら読者の心に深くこれを銘じさせようとするもののものである。すなわち、すでにこうむった聖寵の偉大なこと、および神の召しに応ずるために高尙な聖徳に達すべきことがこれである。

本書は教理上と道德上の二編に分けられる。簡単な冒頭を置いたのち（一章一、二節）、第一編において教理を説き、イエズス・キリストによる救いの恵みの偉大なことを述べ、ことに聖会、その原因、その伝播、そのキリストとの一致を述べ、その計画は永遠で世を救おうとする神のみ心から出、地上の至る所に、イエズス・キリストにおいて、またイエズス・キリストによつて広

がることを述べ（一章三節と三章）、第二編は信仰に召された召しに相当し、また自ら入った聖会に相当して生活するよう種々の教訓をエフェソ信徒に与え（四章と六章二十節）、結末に、この書を持って行く人のことを言い、祝福をもって終わる（六章二十一節以下）。

本書をしたためた年代および特色 本書はコロサイ書、フィレモン書、フィリッピ書と同じく、パウロがロマにおいて初めて囚徒となつた時にしたためたものであるから、その年代は紀元六二年あるいは六三年であろう。

文章は、やや彫琢ちやうたくを欠き、文句が冗長じやうちやうであるのは、匆卒そうそつにしたためたためであろう。一例をあげると、第一章の三節から十四節まで、また十五節から二十三節までは接続代名詞をもつてつながれた一句にすぎない。その組織が入り組んでいて、文はともすると切れ切れに同義の言葉を重ねて混雑がはなはだしく、昔から難解な文とされていた。それで訳文ではやむを得ず、その句を切り、代名詞の代わりに名詞を置き、なるべく解しやすくするように努めた。調子は初めから終わりまで穏やかで論難の態度がなく、重々しい叙述の調子をもつて一貫している。

使徒聖パウロ、エフェゾ人に送りし書簡

冒頭

第一章

挨拶

1 神のおぼしめしによりてイエズス・キリストの使徒たるパウロ、エフェゾにある(すべての)聖徒ならびにキリスト・イエズスにおける信徒に「書簡を送る」。2 願わくは、わが父にてまします神および主イエズス・キリストより恩寵と平安とを汝らに賜わらんことを。

第一編 聖会の並びなき光栄

第一項 エフェゾ信徒のために感謝し祈禱す

3 感謝 3 祝すべきかな、わが主イエズス・キリストの神および父、こはキリストにおいて、も

4 ろもろの靈的祝福をもってわれらを天より祝し給い、4 み前において聖にして汚れなき者たらしめんとて、いつくしみをもって世界開闢かいびやく以前よりキリストによりて選み給い、5 おぼしめしのみにまにイエズス・キリストをもっておのが子とならしめんことを予定し給いたればなり。6 これ最愛なる御子において、われらに賜いし栄光ある恩寵の誉ほまれのためなり。7 われらが贖あがないを得、罪

の許しを得るは、キリストにありてその御血によれり、すなち神の豊かなる恩寵によれるなり。

9-8 8 その恩寵われらにあふれて、もろもろの知恵および悟りを開けり、9 これみ旨に従いて、キリストをもつて予定し給いしおぼしめしの奥義をわれらにさとし給わんためなり。10 このおぼしめしは時期の満つるに及びて、いっさいのもの、すなわち天にあるものをも地にあるものをも、ことごとくキリストにおいて一いっの頭のもとにまとめ給うにあり。11 われらもキリストにおいて選まれ、²おぼしめすままに万事を行ない給うものの計りに従いて予定せられたり、12 これ先んじてキリストを希望せしわれらが、その光栄の誉ほまれとならんためなり。13 汝らもまたキリストにおいて真理の言葉なる汝らの救霊たすかりの福音を聞き、かつこれを信じて約束せられ給いたりし聖霊4をもつて証印*14せられしが、¹⁴これ汝らの世継ぎの保証として、得られたる人々の贖あがないとなり、その光栄の誉とならんために賜わりたるなり。

15 祈禱 15 ゆえにわれも主イエズスにおける汝らの信仰と、すべての聖徒に対する愛情とを聞き、¹⁶絶えず汝らのために感謝し、わが祈禱のうち汝らを記念す。17 祈るところは、わが主イエズス・キリストの神、光栄の父が、汝らに知識と黙示との霊を賜いて神を知らしめ、¹⁸汝らの心の目を明らかにして、その召しによれる希望のいかに知らしめ、聖徒らに賜うべき世継ぎの光栄の富のいかに知らしめ、¹⁹その全能の勢力の働きによりて、信ずるわれらにおいて、その勢力のいかにすぐれて偉大なるかを知らしめ給わんことこれなり。20 その勢力をキリストにおいて表わし、これを死者のうちより復活せしめ、天においてこれをおのれの右に置き、²¹いっさいの権勢5と能力6と、勢力7と主権8との上、またすべて今世こんせいのみならず来世にも名づけられて名へある

22 もの」の上に置き給い、22 万物をその御足の下に服せしめ教会の万事⁹の上に頭^{かしら}となし給えり。23
 23 すなわち教会はキリストの御体²⁰にして万物に万事を満たし給えるものの満ちみち給うところなり。

① ラテン訳では回復せしめ。② ラテン訳では召され。③ コロサイ書1・5 ④ ルカ11・13、ヨハネ7・39、14・17、
 26、ラテン訳では約束の聖霊。⑤ あるいは権天使。⑥ あるいは能天使。⑦ あるいは力天使。⑧ あるいは主天使。⑨
 ラテン訳では全教会。⑩ 神秘体の意。

第二項 神が教会を建て給いし方法

1 **第二章** 洗礼以前のあわれなるありさま 1 汝らはもと、おのがあやまちと罪とによりて死した
 2 る者なりしが、2 かつてこの世間に従い、また空中の権を有して今もなお不信の子らのうちに働
 3 ける霊の君^{きみ}に²従いて歩めり。3 われらもみな、かつてその罪のうち¹にありて、わが肉身の欲のま
 まに生活し肉と心との欲するところを行ないて、他の人々のごとく生来怒りの子^{*}なりき。
 4 いかにして再生したるか 4 しかれども慈悲に富み給える神は、われらを愛し給いし御いづく
 5 いみのあまり、5 罪のために死せしわれらをキリストとともに³生かし給いし汝らの救われしも、す
 6 なわち恩寵^{*}によれり、11 6 またともに復活せしめ、キリスト・イエズスにおいてともに天に坐せ
 7 しめ給えり。7 これキリスト・イエズスにおけるその善良をもつて、われらの上における恩寵の非
 8 常なる富を将来の世々に表わし給わんためなり。8 けだし汝らが信仰をもつて救われたるは恩寵^{*}
 9 によるものにして自らによるにあらず、すなわち神の賜ものなり。9 また業^{わざ}によるにもあらず、
 10 これ誇る人のなからんためなり。10 そはわれらは神の作品にして、神のあらかじめ備え給いし善

- 業のためにこれに歩むようキリスト・イエズスにおいて「新たに」造られたる者なればなり。
- 11 神およびキリストに対するもとのありさまいかな 11 さればもと肉体において異邦人にして、いわゆる割礼かうれいを人の手によりて身に受けたる人々より今もなお無割礼となえらるる汝ら、次のことを記憶せよ。
- 12 今はいかん 12 すなわち、かの時には汝らキリストなくしてイスラエルの国籍外に置かれ、かの約束を結びたる諸契約にあずからず、希望なく、この世に神なき者たりしに、13 今はキリスト・イエズスにありて、先に遠かりし汝ら、キリストの御血をもって近き者となれり。
- 14 キリストは両民族をいっならしめ給う 14 けだしイエズスはわれらの平和にてまします、すなわち両方6を一つにし、隔ての中垣なかがきおよび恨みをおのが肉体において解き、15 種々の掟ある律法*を、その命ずるところとともに廃し給えり。これ平和をなして両方の人々をおのれにおける一人の新しき人に造らんため、16 また「神」に対する恨みを十字架7の上に殺し、その十字架をもって両方の人々を一体となし、神と和やはらがしめ給わんためなり。17 また来りて遠かりし汝らにも幸いに平和を告げ、近かりし人々にも平和を告げ給えり。18 けだしキリストによりてこそ、われら両方の人々は同一の霊をもって父に近づき奉ることを得るなれ。
- 19 異邦人に及ぼしたる結果 19 されば汝らは、もはやよそ人、寄留人きりゆうにんにあらず、聖徒たちと同国民となりて神の家人かじんなり。使徒と予言者との土台の上に建てられ、20 その隅すみの親石はすなわちキリスト・イエズスにましまして、21 全体の建物はこれに建築せられ、次第に築き上げられて、主において一いっの聖なる神殿となり、22 汝らもこれにおいて、聖霊により神の住み家かとしてともに建

てらるるなり。

①あるいは不従順の。②悪魔の意。ヨハネ12・31、14・30、本書6・13、ユロサイ書1・13 ③ラテン訳では、において。④ラテン訳では、その恩寵。⑤ラテン訳では、において。⑥ユデア教と異教と。⑦ラテン訳では、おのが身。

第三項 教会におけるパウロの聖役^{せいえき}

第三章 パウロの特別の資格 1このゆえにわれパウロ、汝ら異邦人のためにキリスト・イエズスの囚人^{しゆうじん}たり。2ただし汝らのために、われに賜わりたる神の恩寵の分配の役をば汝らは聞きしならん、3すわなち先に簡単に書き示したるごとく、¹この奥義は黙示をもってわれに示されたるなり。4汝らはこれを読みてキリストの奥義に関するわが知識を悟るを得べし。5この奥義は、今聖霊によりて聖なる使徒たち、および予言者たちに示されしがごとくには、前代において人の子らに知られざりき。6すなわち異邦人が福音をもって、キリスト・イエズスにおいてともに世継ぎとなり、ともに一体となり、ともに神の約束にあずかる者となることこれなり。7われはその福音の役者とせられたり、これ全能の勢力によりて、われに賜わりたる神の恩寵の賜ものなり。8異邦人に対する奥義を執行するの任 8すべての聖徒のうちにおいて最も小さき者よりも小さき²われに、キリストの極^{きま}めがたき富の福音を異邦人に告ぐる恩寵を賜われり。9これ万物を創造し給いたる神において、世の初めより隠れたりし奥義の計りのいかんを衆人に説き明かす恩寵にして、³10神の多方面なる知恵が、教会をもって天における権勢および能力^{ちから}〔者〕等に知られんため、

12-11 11 わが主イエズス・キリストにおいて全うし給える世々の予定に應ぜんためなり。12 われらは彼
 13 における信仰によりてはばからざることを得^え、希望をもつて神に近づき奉ることを得^う。13 されば、
 こいねがわくは、わが汝らのために受くる患難につきて汝らの落胆^{らくたん}せざらんことを。この患難と
 そ汝らの光榮なれ。

14 エフェソ人の完全なる信徒とならんことを祈る 14 われ、これがために、わが主イエズス・キ
 15 リストの父、15 すなわち天にも地にも諸属のよつてもつて名づけらるるところの父のみ前にひざ
 16 まずき、16 汝らがその光榮の富に従い、その靈により、能力をもつて内面の人として堅固にせら
 17 れんこと、17 また信仰によりてキリストの汝らに宿り給わんことをこいねがい奉る。これ汝らは
 19-18 愛に根ざし、かつ基^{もと}きて、18 すべての聖徒とともに広さ長さ高さ深^{ふか}さのいかんを知り、19 またい
 っさいの知識を超絶せるキリストのいつくしみを知ることを得て、すべて神に満ちみてるものに
 汝らの満たされんためなり。

20 榮誦をもつて編を結ぶ 20 願わくは、われらのうちに働ける能力によりて、われらの願うとこ
 21 ろ、また知るところを超^こえて、なお豊かに万事をなし得給えるものに、21 教会およびキリスト・
 イエズスにおいて永遠の世に至るまで光榮あらんことを、アメン。

① 本書1・9 ② ラテン訳では聖徒のうちの最も小さき。③ あるいは権天使および能天使。④ すなわちキリストのい
 つくしみ。

第二編 以上の教理より出ずる実用的結果

第一項 教会一致の必要

第四章

1 信徒はその受けし召しによりて一致すべし 1 されば主にありて囚人たるわれ汝らにこ

2 いねがう、汝ら召されたる所の召しにふさわしく、2 すべて謙遜と温良とをもって歩み、

3 忍耐して愛をもって相忍び、3 平和のつなぎにて精神の一致を保つよう注意せよ。

4 一致の理由 4 体は¹、精神は²、なお汝らが召されたる所の召しの希望の¹なるがごとし。

6-5 5 主は¹、信仰は¹、洗礼は¹、6 一同の上³にいまし、一同を貫⁴き、一同のうち⁴に住み給える一

同の神および父は¹のみ。

7 主の賜ものも一致を勧む 7 しかるに、われらめんめん⁷に賜わりたる恩寵はキリストの賜いた

8 る量に⁵応ず、8 このゆえに「聖書に」いわく、「上⁶に昇りてとりこを⁶伴い行き、人々に賜ものを与

9 え給えり⁶」と。9 そもそも昇り給いしは、先に地の低き所までくだり給いしゆえに⁹あらずして何

10 ぞや。10 くだり給いしものはまた万物に満ちみ¹⁰たんとて、もろもろの天の上に昇り給いしものなり。

11 11 またある人々を¹¹使徒とし、ある人々を¹¹予言者とし、ある人々を¹¹福音者とし、ある人々を¹¹牧師¹¹お

12 よび教師として与え給えり。12 これ聖徒らの全うせられ、聖役の営まれ、キリストの体⁷の成り立

13 たんためなり。13 すなわち、われらがことごとく信仰と神の御子を知る知識との一致に至りて完

14 全なる人となり、キリストの全き成長の量に至らんためにして、14 われらはもはや小兒¹⁴ならず、

ただよわさることなく、人の偽りと誤謬¹⁴の巧みなる誘惑¹⁴とのために、いずれの教えの風¹⁴にも吹

15 きまわされず、15 真理にありて、愛により万事につきて頭^{かしら}たる者、すなわちキリストにおいて成長
 16 せんためなり。16 彼によりてこそ体全体に固まり、かつ整い、おのおの四肢^{しし}の分量に應ずる働き
 に従いて、すべての関節の助けをもつて相連なり、自ら成長し、愛によりて成り立つに至るなれ。

第二項 キリスト教の聖徳は異教人の悪徳に反す

17 異教人のあわれなるありさま 17 ゆえにわれこれを言い、かつ主においてこいねがう、¹⁰ 汝らもは
 18 や異邦人のごとく歩むことなかれ、彼らはおのが精神のむなしきに任せて歩み、18 知恵をくらまさ
 19 れ、身¹²に持てる不知のために、その心のかたくなによりて神の生命より遠ざかり、19 感ずること
 なく、放蕩^{ほうとう}に、あらゆる淫乱^{いんらん}の業^{わざ}に、貪欲に、おのれをゆだねたるなり。20 されど汝らがキリス
 21 トを学びしは、かくのごときことにあらず、21 もしこれに聞きて、真理のイエズスにあるがまま
 22 に彼につきて学びしならば、22 すなわち以前の行状^{ぎやうじやう}につきては迷いの望みに従いて腐敗^{ふはい}する古き
 23 人を脱ぎ捨て、23 精神の主義を一新^{いっしん}し、¹³ 24 神にかたどりて真理より出ずる義と聖徳とにおいて造
 24-23 られたる新しき人を着ることを学びしなり。¹⁴

25 キリスト教的生活に関する教訓 25 されば汝ら偽りを捨てて、おのおの近き人とともに誠を語
 26 れ、われらは互いの肢^{えだ}なればなり。26 汝ら怒るとも罪を犯すことなかれ、¹⁵ 汝らの怒りの間に日入
 28-27 27 悪魔に機会を与うることなかれ、¹⁶ 28 盗める人はもはや盗むべからず、むしろ困窮^{こんきゆう}
 29 せる人々に物を施すことを得んために働きて良き手業^{てわざ}をなせ。29 不潔なる物語は、いっさい汝ら

の口より出だすべからず、良きものならば聞く人々に恩寵を与えんため、要する人の徳を立つる
 ようにこれをなせ。¹⁷ 30 救いの日を期して証印せられ奉りたる神の聖霊をして憂えしむるなかれ、
 31 すべて苦きこと、怒り、憤り、叫び、ののしりをば、いっさいの悪心とともに汝らのうちより
 32 取り除け。 32 さて互いに慈悲親切にして相許すこと、神もキリストにおいて汝らを許し給いしが
 ごとくにせよ。

① 教会を言う。本書 1・23、2・15、16、コリント前書 12・13 ② あるいは靈。③ 一同とは信徒の意のことであろう。
 ④ ラテン訳では万物。⑤ ロマ書 12・6 ⑥ 詩編 67・19 ⑦ 教会の意。本書 1・22、23 を見よ。⑧ ラテン訳では愛に
 おいて誠を行ないつつ。⑨ 教会の意。⑩ ラテン訳では証す。⑪ ラテン訳では盲目。⑫ 良心にも善例にも感じないこと
 の意。ラテン訳では失望して。⑬ ラテン訳では新たにせよ。⑭ ラテン訳では着よ。⑮ 詩編 4・5 ⑯ 和らぐことを翌
 日にのばすなとの意。⑰ ラテン訳では信仰を立つるようにせよ。⑱ 本書 1・13、14

2-1

第五章

なお愛を勧む

1 されば汝ら至愛なる小児のごとく神にならう者となり、2 また愛のう
 ちに歩みて、キリストもわれらを愛し、われらのためにおのれを芳しき香りの献げ物とし、犠牲
 として神に献げ給いしがごとくにせよ。

3 ことさらに肉欲を防ぐべし 3 私通およびすべての淫乱貪欲は、その名すらも汝らのうちにと
 4 なえらるべからざること、聖徒たる者にふさわしかるべし。 4 あるいは汚行、愚かなる物語、悪
 5 しき戯れ言、これみなふさわしからず、むしろ感謝すべきなり。 5 汝ら悟りて知らざるべからず、
 6 おいて世継ぎたらざるなり。 6 たれも空言をもって汝らを欺くべからず、そはこれらのことのため
 8-7 めに、神の怒りは不信の子らの上にくだればなり。 7 ゆえに汝ら彼らにくみすることなかれ。 8 け

9 だし汝らかつては暗闇なりしかど、今は主にありて光なり、光の子のごとくに歩め、9 光の結ぶ
 10 実¹は、すべての慈愛と正義と真実とにあり。10 いかなることの神のみ心にならうかをためし見よ。
 11 かつ実を結ばざる暗闇の業^{わざ}にくみすることなく、むしろかえってこれをとがめよ。12 けだし彼
 13 らのひそかに行なうところは、これを口にするすら恥なり。13 すべてのとがむべきことは光によ
 14 りて現わる、すべて現わるるは光なればなり。14 このゆえに言えることあり、「眠れる人よ立て、
 死者のうちより立ち上がれ、キリスト汝を照らし給わん²」と。

15 一般の勧め 15 されば兄弟たちよ、いかに慎しみて歩むべきかに心せよ。愚者のごとくにせず、
 16 17-16 知者のごとくに歩みて、日悪しければ良き機会を求めよ³、17 されば神のみ旨のいかんを悟りて
 思慮なき者となることなかれ。

18 酩酊^{めいてい}に反する精神的喜悅 18 また酒に酔うことなかれ、そのうちに淫乱あるなり。むしろ(聖)
 19 霊に満たされて、19 霊的の詩と賛美歌と歌とをもって語り合い、また心のうちに歌いて主を賛美
 20 し奉り、20 常にわが主イエズス・キリストのみ名をもって万事につきて父にてまします神に感謝
 21 し、21 キリストを恐れ奉りつつ互いに帰服せよ。

第三項 家庭における信者の義務

23-22 妻の義務 22 妻たる者はおのが夫に従うこと、主におけるがごとくにすべし、23 そは夫が妻の
 頭^{かしら}たること、キリストが教会の頭^{かしら}にして、自らその体の救い主にましまするがごとくなればなり、

24 24 されば教会のキリストに従うがごとく妻もまた万事夫に従うべし。

25 夫の義務 25 夫たる者よ、汝らの妻を愛すること、キリストも教会を愛して、これがためにおのれを渡し給いしがごとくにせよ、26 おのれを渡し給いしは（生命の）言葉により、水洗いにてこれを清めて聖とならしめんため、27 光栄ある教会、すなわちしみなく、しわなく、さる類のこともなき教会を自らおのがために備えて、これをして聖なるもの、汚れなきものたらしめんためなり。28 かくのごとく夫たる者もまた、おのが妻をわが身として愛すべきなり、妻を愛する人は、これおのれを愛する者なり。29 けだし、かつていかなる人もおのが肉身を嫌いしことなく、かえってこれを養い守ること、なおキリストが教会になし給いしがごとし、30 そはわれらは、その御体の肢にして、その肉より、その骨よりなりたればなり。31 ゆえに人は父母をさしおきておのが妻にそい、しかして二人一体となるべし、32 これ大いなる奥義なり、われはキリストおよび教会につきてこれを言う。33 されば汝らもおのおの、おのが妻をおのれとして愛し、また妻は夫を畏敬すべし。

① 神の光に照らされる子どもの意。② イザヤ 60・1、9・2、26・19 ③ ラテン訳では時を贖え。④ キリストの神秘体と言われた教会。エフェゾ書 1・22、23、4・12、コリント前書 6・15

第六章

親子相互の義務

1 子たる者よ、主において汝らの父母に従え、けだしこれ正当のこと

となり。2 「汝らの父母を敬え」とは、約束を付したる第一の掟にして、3 すなわち「汝が幸い

を得て地上に長命ならんため」となり。4 父たる者よ、汝らもその子どもの怒りを買ふことなくして、主の規律と訓戒とのうちにこれを育てよ。

5 奴隷の義務 5 奴隷たる者よ、キリストに従うがごとくに恐れおののき、単純なる心をもって
6 肉身上の主人に従え。6 人々の心になわんとするがごとくに目の前のみにて仕えず、キリスト
7 の奴隷として心より神のおぼしめしをなし、7 仕うることに人においてせず、主においてするがご
8 とくに快くせよ。8 そは奴隷たると自由の身たるとを問わず、各自のなしたる善は、いずれも主
より報いらるべしと知ればなり。

9 主人の義務 9 主人たる者よ、汝らもまた奴隷に向かいてなすことかくのごとくにして、彼ら
におどしを加うることなかれ、そは彼らと汝らとの主、天にましまして人につきて片寄り給うこ
となしと知ればなり。

第四項 信者は雄々しく信仰のために戦うべし

12-11 10 神の武具をつくべきこと 10 終わりにのぞみて兄弟たちよ、汝ら主において、またその大能の
力において氣力を得、11 悪魔の計略けいりやくに勝つことを得んために神の武具を身につけよ。12 そはわれ
らの戦うべきは血肉に向かいてにはあらず、権勢けんせいおよび能力能力、この暗闇の世の司つかさどら、天空てんくうの悪霊
らに向かいてなればなり。13 されば悪しき日に抵抗し万事に成功して立つことを得んために神の
武具を取れ。

17-16 15-14 靈的武具 14 されば立て汝ら、腰に眞実を帯し、身に正義の鎧よろいをつけ、15 足に平和の福音に対
する奮発ふんぱつをはき、16 すべての場合において悪魔の火矢ひやを消すべき信仰の楯たてを取り、17 救霊すくいきのかぶ

18 と、神の御言葉なる〔聖〕⁵霊の剣^{つるぎ}とを取り、18 なおかつすべて祈禱および懇願^{こんがん}をもって、いずれの機会においても⁵聖霊によりて祈り、忍耐をもって聖徒一同のために懇願^{こんがん}することに注意せよ。
 19 またわがためにもしかなして、われは福音の奥義のために鎖^{くさり}につながれたる使節なれば、はばからず口を開きてこれを知らするよう言葉を賜わり、20 これにつきてわが語るべきままにあえて語るように祈れ。

結

末

21 チキコ派遣の目的 21 われに関すること、わがなすことを汝らも知らんために、わが至愛なる兄弟にして主の忠実なる役者たるチキコは、万事を汝らに告ぐるならん。22 わが彼を遣わししはこれがため、すなわち彼がわれらに関することを汝らに知らせて汝らの心を慰めんためなり。
 23 末尾 23 願わくは、父にてまします神および主イエズス・キリストより平安と愛と信仰とを兄弟たちに賜わらんことを。24 願わくは、わが主イエズス・キリストを愛し奉るすべての人に恩寵あらんことを、アメン。

① 出エジプト記20・12、申命記5・16 ② あるいは墮落の権天使。③ あるいは墮落の能天使。④ 悪魔の意。⑤ ラテン

訳では、いずれの時にも。